

## 特記仕様書

- 第1条 本特記仕様書は、七尾市（以下「当市」という）の施工する各種工事に適用する。
- 第2条 工事を施工するに当たり、水道工事標準仕様書、特記仕様書及び設計図書に準じ完全な施工をしなければならない。又、必要な書類、工事写真、検査証明及び承認図等をその都度提出すると共に、施工内容の変更が生じた場合、速やかに変更許可を求め、承認を得てから施工しなければならない。
- 第3条 承認図書は主要な機器、材料及び施工方法について提出し、承認を受けた後で製作、施工に着手するものとする。又、承認図書は製本して提出するものとする。承認を受けずに取り付けた機器等について不相当と認められる場合は、その取り替えを命ずることがある。
- 第4条 本工事に使用する資材、材料及び機器の選定は、水道協会規格品及びJIS規格品とし、規格品以外の物件については事前に市の承認を求めて搬入するものとする。又、水協検査証及び各種検査証を必ず提出するものとする。  
尚、使用材料はリサイクル認定品を優先的に使用するものとする。
- 第5条 本工事に使用する材料は、下記のとおりとする。
- 鋳鉄管
- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| GX形ダクタイル鋳鉄管（第1種・第S種）            | JWWA G 120 (JDPA G 1049) |
| GX形ダクタイル鋳鉄異形管                   | JWWA G 121 (JDPA G 1049) |
| ※ 直管、異形管とも内面粉体塗装とする。            |                          |
| ※ 耐震管の時のフランジ短管は形式2 (GF-RF) とする。 |                          |
| K形ダクタイル鋳鉄管（第3種）                 | JIS G 5526               |
| K形ダクタイル鋳鉄異形管                    | JIS G 5527               |
| ※ 直管、異形管とも内面粉体塗装とする。            |                          |
| ポリエチレンスリーブ・固定用ゴムバンド             | JWWA K 158-2005          |
- 特殊押輪 **(3DkN型)**
- |                  |         |
|------------------|---------|
| T頭ボルト・ナット（フッ素合金） |         |
| クロダイト 大成機工 コスモ工機 | （同等品以上） |
- 水道配水用ポリエチレン管
- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 水道配水用ポリエチレン管（HPPE） | JWWA K 144 |
| ※ EF受口付直管を基本とする。   |            |

## 継手管

水道配水用ポリエチレン管継手 JWWA K 145

※ フランジ付はPE挿し口付鋳鉄製とする。

PE挿し口付鋳鉄製T字管、渦巻き式T字管、乙管

※ 鋳鉄部分は内外面粉体塗装とする。

※ フランジはGF形とする。

※ 鋳鉄部はポリエチレンスリーブ被覆工を施す。

メカニカル形水道配水用ポリエチレン管継手

(F C D製 内外面粉体塗装)

ボルト・ナット (フッ素合金)

※ フランジはGF形とする。

※ 鋳鉄部はポリエチレンスリーブ被覆工を施す。

大成機工 コスモ工機 (同等品以上)

## 塩化ビニル管

水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HI-RR) JWWA K 129

水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HI-VP) JIS K 6742

## 継手管

塩化ビニル管離脱防止金具 (F C D製 筒型) JWWA K 128

※ 離脱防止金具はポリエチレンスリーブ被覆工を施す。

塩化ビニル管継手 (F C D製 内外面粉体塗装)

ボルト・ナット (フッ素合金)

※ 鋳鉄部はポリエチレンスリーブ被覆工を施す。

大成機工 コスモ工機 川西水道機器 (同等品以上)

継手管 (ベンド・ソケット (拘束長区間))

離脱防止機能内蔵型・水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管継手

クボタ (S G R - V N形継手)

※ 鋼管接続箇所は、使用禁止とする。

## フランジ継手材

SUS304 B, N RF・GF兼用 (全面上水型芯金入)

SUS304 B, N GF形1号 水道用

ナットは、焼き付け防止タイプとする。

## 埋設標識シート

150mm×50m (2倍折込)

サンエス護謨工業 ヨツギ

## 仕切弁

**G X形・K形** ソフトシール仕切弁（両受け・受挿し）

清水合金 前沢工業 栗本鐵工所 クボタ 角田鉄工 宮部鉄工  
（同等品以上）

P E 挿し口付ソフトシール仕切弁 PTC B 22

※ 仕切弁の鑄鉄部はポリエチレンスリーブ被覆工を施す。

E F 片受ソフトシール仕切弁

※ EF片受ソフトシール仕切弁を基本とする。

※ 仕切弁の鑄鉄部はポリエチレンスリーブ被覆工を施す。

クボタケミックス 清水合金 角田鉄工 前澤工業（同等品以上）

塩ビ両受け仕切弁 （F C D 内外面粉体塗装 ソフトシール仕切弁）

ボルト・ナット（フッ素合金）

※ 鋼管接続可能な両受仕切弁とする。

※ 仕切弁の鑄鉄部はポリエチレンスリーブ被覆工を施す。

大成機工 コスモ機 栗本鐵工所 川西水道機器（同等品以上）

ソフトシール仕切弁 上水タイプ JWWA B 120

消火栓 ※うず巻式フランジT字管、うず巻式チーズとする。

地下式消火栓 単口（浅層埋設対応型 リフト型） 内外面粉体塗装

清水合金 前沢工業 栗本鐵工所 クボタ 角田鉄工 協和工業  
宮部鉄工（同等品以上）

地下式消火栓 双口（ニューB R ツイン消火栓）

清水合金 宮部鉄工

空気弁付消火栓（ボール弁付き）浅埋対応型 リフト型

清水合金 角田鉄工 宮部鉄工（同等品以上）

空気弁（25mm）※塩ビ管継手の時は、フランジ付チーズ（台座付）とする。

急速（フランジ一体型・浅層埋設対応型） 内外面粉体塗装

清水合金 クボタ 角田鉄工 協和工業 宮部鉄工（同等品以上）

## 補修弁

レバー式（内外面粉体塗装） 高さ 100mm JWWA B 126

※補修弁の開閉方向はレバーに向かって右が開、左は閉の仕様とする。

※耐震管の時はGF形とする。

口金内蔵型急速空気弁＋開度計付キャップ式補修弁

※耐震管の時はGF形とする。

角田鉄工

## 仕切弁筐

上部スライド式鉄蓋 レジンボックス積上げ型（φ200）

トミス、ダイモン

消火栓筐・空気弁筐（円形）

トミス、日之出水道機器、ダイモン

サドル分水栓（耐震性能強化型）

鋳鉄管用（20mm～50mm）

JWWA B117 A形 ボール式（防食フィルムを施工する事。）

※ダクタイト鋳鉄管用サドル分水栓の時は、密着コアを取付けること。

日邦バルブ

配水ポリエチレン管用（20mm～25mm）

PTC B 20 A形 ボール式（防食フィルムを施工する事。）

日邦バルブ

給水管継手材（ポリエチレン管・ビニル管）

NSPX継手、KMP継手S型、PTM継手（耐震性能強化型、コア一体型）

日邦バルブ、前澤給装工業、タブチ

H I T S 継手

JIS K 6743

仮設配水管

直管 80A・100A

水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管(SGP-PB) JWWA K 132

80A・100A・150A

水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VB) JWWA K 116

継手管

樹脂被覆ねじ込み式可鍛鋳鉄製管継手 JIS B 2301

50A以下・仮設給水管

水道用 1 種 ポリエチレン管 JIS K 6762

継手管（水道用 1 種 ポリエチレン管）

標準 ポリエチレン継手（PLA）

PLA継手の規格外品 KMP・NSP・PEM・SKX継手

前澤給装工業、日邦バルブ、タブチ、川西水道機器

上記資材の同等品以上とする

注）上記以外の材料を使用する場合は、当市監督員の承諾を得ること。

第 6 条 土工事については下記とする。

残土処分地

七尾鹿島建設業協同組合 七尾市国分町

廃材処分地 As

県許可施設

廃材処分地 Co

県許可施設

再生砕石 下層路盤材使用時は、アスファルト塊の混合率は50%以内とする。

- 2 購入土・再生砕石土場地と残土・廃材処分地を、監督員に報告し、変更する場合は、監督員の承諾を得て土場地又は、処分地の場所を地図等で明記しなければならない。
- 3 舗装を取り壊し、工事した箇所については当日中に仮復旧まで完了しなければならない。これを行わずして事故等が発生した場合、受注者の責任において補償しなければならない。

第7条 管の据付接合及び給水装置の設置を行う技能者は、工事着手までに確認できるものを当市監督員に提出すること。

- ア) (社)日本水道協会の配水管技能登録者
- イ) 日本ダクタイル鉄管協会の継手接合研修会修了者
- ウ) POLITECの施工講習受講証
- エ) メーカーの施工講習修了証（セキスイ、クボタケミックス）
- オ) 日本溶接協会の溶接適格性証明書
- カ) 給水装置工事主任技術者免状

第8条 仮設配水管・仮給水工事については下記とする。

本設管布設後、速やかに撤去することを原則とする。

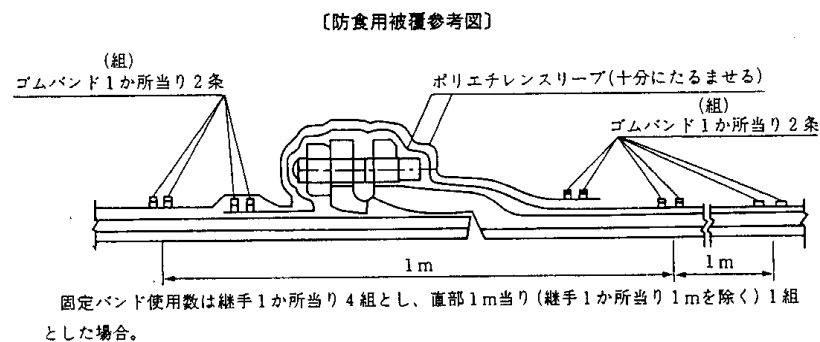
- 2 仮設配管は、露出配管及び埋設配管とし、埋設した管材は再度掘削し撤去することを原則とする。
- 3 人家及び車庫前等の出入口に配管する場合は、埋設を原則とする。
- 4 仮設配管の埋設位置については、当市で定めた影響幅を確保した位置から埋設を行わなければならない。
- 5 仮設配管の通水に先立ち管内洗浄を行わなければならない。
- 6 夏季から冬季や冬季から夏季に渡る工事の時は、保温保冷対策や凍結防止対策を行わなければならない。

第9条 管布設の受口の方法は設計図の通りとし、変更する場合は監督員の承諾をもって施工すること。

- 2 管の施工は、各管種の施工マニュアルを熟読のうえ、専用工具を使用して施工すること。
- 3 鋳鉄管布設時の受口による曲げは、3度以下を原則とする。
- 4 押輪、特殊押輪及びフランジ部のボルトの締め付けはトルクレンチ等を使用し、締めすぎに注意すること。
- 5 水道配水用ポリエチレン管のEF接合は、水があると融着不良になり正常な接合ができないため、雨天時にはテントなどの雨よけ対策を行って、接合部が水に濡れないよう確実に施工すること。
- 4 塩ビ管挿入後全円周にわたってゴム輪が正常な状態か十分に確認すること。
- 5 既設管の土被りによって、流量計室の布設深さが変わる場合があり、施工前に試掘を行い土被りを確認すること。

- 6 既設管の接続については、F C D 製（内外面粉体塗装）とし離脱金具を取り付ける事とする。
- 7 ゴム輪形塩化ビニル管布設時の受口による曲げは、4 度以下を原則とする。
- 8 塩化ビニル管継手（S G R－V N 形）の施工は、荷締め機又は、挿入機を使用し、標線位置より深く挿入しない事。
- 9 消火栓及び空気弁設置の際、各メーカーによって寸法が違っているため、施工前に地盤から100～150mm下がった位置に設置できるか確認すること。

第10条 鋳鉄管及びF C D 製継手の外面は、全長に渡りポリエチレンスリーブで被覆するものとし、固定用ゴムバンドを使用する事とする。



第11条 配水管布設において、空気留まりが出来ないように水平配管もしくは空気弁側上り配管とし、管の勾配に注意して布設すること。

第12条 水路等を横断する場合は、管布設及び埋戻しに際し底版裏面へ充分砂が行くよう水締を行い、後日構造物の沈下が生じないようにすること。沈下が生じ構造物が破損した場合は、受注者により全面復旧を行う場合もある。

第13条 水路やヒューム管を伏越する場合には、その底部に直接継手個所を設けてはならない。又、その部分に管割上で継手部分がある場合は前後に切管を設けるものとする。

第14条 工作物及び既設構造物に損害を与えた場合は、受注者の責任により補償及び原形復旧しなければならない。

第15条 現場作業実施の都合上で土曜日・休日又は夜間作業を必要とする場合は、前もって監督員の承諾を得るものとする。

- 第16条 管布設時に床掘を行い、土砂の崩れる恐れがある場合は矢板工をもって土留めを施こし、事故を未然に防止しなければならない。
- 第17条 筐の笠上げについては、道路本復旧工事完了まで本工事の受注者の責任とする。
- 第18条 配管はすべて通水試験を行うものとし、路面復旧工事着手前に行わなければならない。
- 2 鋳鉄管等の通水試験圧については標高の一番低いところで0.75MPaとし、30分間以上維持していれば合格とする。また、配水用ポリエチレン管については0.75MPaまで加圧し、5分間放置した後に再度0.75MPaまで再加圧する。その後、すぐ水圧を0.5MPaまで減圧し、1時間後0.4MPa以上維持していれば合格とする。但し0.4MPa未満であれば計測を継続し、24時間後に0.3MPa以上維持していれば合格とする。
- 3 試験の結果、配管に漏水及び破損個所が発見された場合は速やかに修理し、当市監督員の再検査を受けるものとする。
- 第19条 工事写真は下記の個所につき撮影しアルバムに整理し、当市監督員に提出しなければならない。
- ア) 工事着手前（全体・部分）
  - イ) 曲管部の継手状態及び離脱防止工
  - ウ) 仕切弁、空気弁及び消火栓の取付個所
  - エ) 矢板工及び復旧状態
  - オ) 舗装切断・取壊工・掘削・床均し状態
  - カ) 管土被り及び復旧状態
  - キ) 路面復旧の状態
  - ク) 工事完成後
  - ケ) その他監督員の指示する個所
- 第20条 管材の試験成績表は材料検査毎に提出するものとし、不合格品は速やかに場外に持ち出すものとする。
- 第21条 管材の運搬は充分注意して行い、路線布設及び準備配置等についても損耗なきよう十分な配慮を必要とする。もし破損が生じた場合は、受注者の責任により補償する。
- 2 管及び継手のつり上げはワイヤーの使用を一切認めないものとし、これらを守らずして管等に傷がついた場合は、材料の取替を命ずる場合もある。
- 第22条 管布設1日工程の末端部には管径に応じたキャップを設け、降雨、汚泥及び土砂が混入しないよう施工しなければならない。

第23条 当市監督員の指示のある場合は、工事完了後竣工図と共に管布設施工工程及び継手の状態を明記した工事日報を提出すること。

2 出来高図（竣工図）は、管割図とし、給水台帳図・数量も提出しなければならない。

3 GX・NS形ダクタイル鋳鉄管及び水道配水用ポリエチレン管を使用した場合には、各管種類のチェックシートにより管理し提出すること。

第24条 他の関連工事との協議・調整を密にし、手戻りなき様施工すること。

第25条 下水道工事と同時に行う給水管接続工については、下水道公共柵の位置が確定していない為、地権者との確認のうえ決定し変更については精算設計により変更する。

以上